

8/28 福井

健保組合4分の1解散か

25年試算 高齢者向け拠出増

大企業の会社員らが加入す

る健康保険組合の4分の1
が、2025年までに財政悪
化で解散の危機に追い込まれ
るという試算を健康保険組合
連合会(健保連)がまとめた。
高齢者向けの医療費を支える
拠出金が急増して財政を圧迫
するためで、健保連は拠出金
負担の軽減や高齢者医療費の

抑制を求めてい。

健保組合は全国に約140
0あり、加入者は約2900
万人。保険料は企業と従業員
が原則折半している。

健保連の試算では、平均保
険料率は15年度の9・1%か
ら25年度には11・8%に上昇
するとい推計。4分の1に当た
る協会けんぽには保険料率を

に中小企業の従業員らが加入

する協会けんぽの25年度の推
計保険料率(12・5%)以上
になる見通しだ。協会けんぽ
よりも保険料率が高くなる
と、企業が独自に健保組合を
維持する意味がなくなり、解
散につながりやすい。

65歳以上の高齢者の医療費を
賄うために資金を拠出。健保
組合全体で見ると、15年度は
義務的経費の46%を拠出金が
占めているが、高齢化が進む25
年度には50%を上回る。25年
度の拠出金は15年度から38・
6%増の4兆5400億円に

てる費用の16・4%に国庫補
助が入っている。健保連は、
380組合が解散して510
万人が協会けんぽに移ると、
国の財政負担が1800億円
増えるとしている。

健保組合は、医療費など加
入者の支出だけでなく、
65歳以上の高齢者の医療費を

賄うために資金を拠出。健保
組合全体で見ると、15年度は
義務的経費の46%を拠出金が
占めているが、高齢化が進む25
年度には50%を上回る。25年
度の拠出金は15年度から38・
6%増の4兆5400億円に